

尋常
小學
作文
教案

卷三

特

4

437

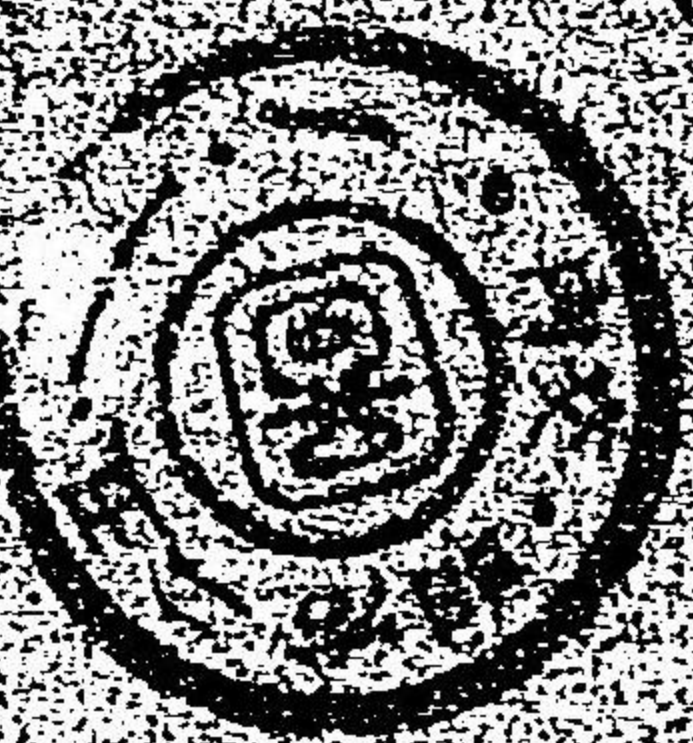


學者院助教授 藤井 長藏先生序 校閱

加藤元右衛門君 著

作文教案

卷三



長島文昌堂發兌

教授心得

一 心力發育ノ度ニ應シテ教授ヲ施スベシ

心力ノ發育スル自ラ順序アリ此ノ順序ニ依ラヌシテ心力ヲ開發セント欲セバ却テ教育ヲ害ス例ハ初級ノ生徒ニ向ツテ風ハ空氣ノ流レ動クヨリ起ル或ハ社會ノ爲ニ利益ヲ起ス可シ等ノ文ヲ書カシムルモ兒童ハ唯音ノマヽニ文字ヲ綴ルモ絶エテ其ノ意ヲ解スルヲ能ハザルベシ斯ク生徒ノ心力ニ適セサル事柄ハ毫モ利スル處ナシ故ニ其ノ心力ニ適スル程度ニ依ツテ漸々ニ進ムベシ

一 最初觀念思想ヲ作り而シテ後ニ文字文章ヲ綴レ

文ニ作ラシメント欲スル事柄ハ先問答ニ於テ之ヲ覺ラシメ其順序モ畧心中ニ整定セシメタルノ後筆ヲ探テ叙記セシム可シ

然レモ一年級二年級ノ程度ニ於テハ心ニ覺ラシメシ後先言語ニ表出セシム可シ例ハハ紅梅ヲ示シテ其ノ花ノ名及色ヲ覺ラシメテ後紅イ梅ノ花トハ(アカキ梅ノハナ)ト書ク可キコトヲ言語ニテ表出ス可シ其ノ他該級ニ係ラス日用文ヲ授クルニハ此ノ例最モ多シ

一文題ハ可成卑近ニシテ種類ヲ變化ス可シ

常ニ同種ノ事物ニ就キテ教授スル時ハ兒童倦怠ノ心ヲ生ズ又兒童ノ熟知セサル事物ニ就キテスルモ充分ナル觀念ヲ引起ス能ハズ随ツテ怡然トシテ學ブコトナシ故ニ日常目撃スル事物ニ就キ毎ニ種類ヲ變ヘテ授クルヲ可ナリトス例ハハ帽子、硯、梅、毛絲、鳩、靴等ト種類ノ異ナルモノヲ選ブガ如シ

一先生徒ノ注意ヲ惹クヲ要ス

生徒若シ心ヲ他ニ奪ハレテ注意セサル時ハ先之カ注意ヲ惹キ而シテ後ニ説明ス可シ

一善惡可否ハ先生徒ノ輿論ニ問ヒタル後ニ決ス可シ

生徒ノ口答或ハ板上ヘ書カシメタル文字ノ可否善惡ハ先之ヲ衆生徒ニ問ヒ其ノ可否ヲ決セシ後教師之ヲ認可シ又生徒ノ輿論ニ誤リアル時ハ充分ニ之カ説明ヲナス可シ

以上ハ近世教育家ノ是認スル說中作文教授ニ必要ト認メシ所ヲ抄寫シ之ニ著者ノ意見ヲモ加ヘテ讀者ノ便ニ供セシモノナリ

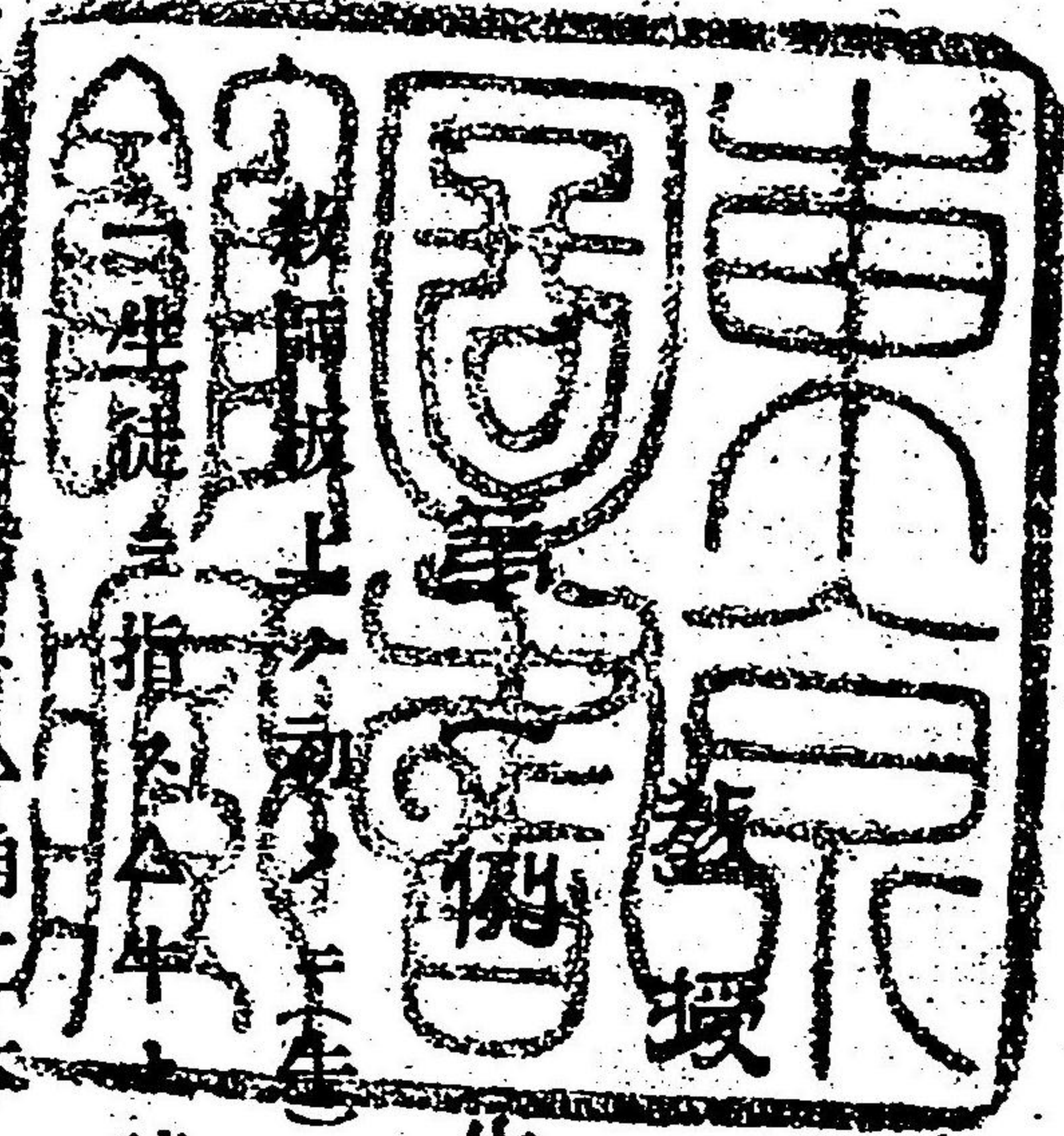
明治二十五年晚夏

著者誌

尋常作文教案卷之三

學習院助教授 藤井長藏 閱

加藤元右衛門 著



法
牛

教師板上に「生徒」ト書シ○之ヲ讀ミ得ル者ハ舉手セヨ△舉手ス○
生徒指シ△牛ト讀ム○然リ牛ニ就キ知ル所ヲ語レ△舉手ス○一
生徒指シ△本アリ○其ノ他ニ就キ知ル處ヲ語レ△舉手ス
 ○指ス△力甚ダ強シ○其ノ他ニ用ナキヤ△舉手ス○指ス△車
 ナ輓キ又荷物ヲ負フ○其ノ他ニ用ナキヤ△舉手ス○指ス△鳥ニ使フ

衆可決 ○其ノ他ヨ△舉手ス ○指ス△其ノ乳ハ人ガ飲ミ又肉ヲ食ス ○然
 リ其ノ乳ヲ飲ミ肉ヲ食スルハ何故ナリヤ△舉手ス ○指ス△ウマキ故
 ナリ ○然ラハ乳ハウマキヤ△否 ○然ラハ何ノタメナルヤ△舉手ス ○
 指ス△養ヒトナル故ナリ 衆可決

以上ノ問答ハ必ズシモ作文通リノ順序コナスヲ要セス若シ強ヒ
 テ然スル時ハ却テ注入的ノ教授トナルベシ故ニ順序ニ關セス生
 徒ノ知ル所ノ事實ハ皆語ラシメ然ル後次ノ處ニテ要ヲ摘ミ序次
 ナ正スベシ

○今マデノ事ヲ續ケテ話シ得ル者アリヤ△舉手ス ○指ス△牛ハ二本
 ノ角ガ有ツテ力ガ強クテ車ヲ輓キタリ荷物ヲ負フタリシマシテ其ノ
 乳ト肉トハ人ガ食ベマス ○話ノ中ニヌケタル處ナキヤ△舉手ス ○指
 ス△畠へ使フト云フ事ヌケタリ ○誰カ充分ニ話シ得ルモノハナキヤ

△舉手ス ○指ス△牛ハ二本ノ角ガ有ツテ力ガ強クテ車ヲ輓キタリ荷
 物負ヒタリ又畠ニ使ヒマス其ノ乳ト肉ハ人ガ食ベマス ○可ナリ
 ○乳ト肉ハ人ガ食ベマスト云ハズシテ他コ言ヒ方ナキヤ△舉手ス ○
 指ス△乳ト肉ハ養ヒニナリマス(知ラサレ) ○畠ニ使フト云フコト譯リ
 易ク言フ方ハナキヤ△舉手ス ○指ス△田畠ヲ耕スニ使フ
 畧ボ話シ得ル様コナリタレバ是レヨリ知ラサル文字ヲ問フベシ△舉
 手ス ○指ス△強シト云フ字ハ如何 ○此ヲ知ル者アリヤ△舉手ス ○指
 シ出ダシテ板上へ書カシム△強シト書ス 衆可決 ○他コナキヤ△舉手ス
 ○指ス△耕ストハ如何 ○知レル者アリヤ△舉手ス ○指シ出ダシテ板
 上ニ書カシム△耕ト書ス ○違ヒナキヤ△舉手ス ○指ス△出ダシ板上へ
 耕ト書ス 衆可決 △舉手ス ○指ス△養ヒト云フ字如何 ○書キ得ル者舉手
 セヨ△舉手スル者ナシ ○板上へ養ト書キテ教ユ

○石盤ヲ出シテ今ノ文字ヲ使フテ綴ラシメ帳簿ニ記シテ出サシム
 文字ハ可成生徒ノ知ル所ノモノハ板上へ書カシムルヲ可トスレ
 凡一點一劃ノ爲メニ時間ヲ費スハ無益ノ事ナレバ實地教授ノ際
 ニハ時間ノ長短ヲ見計ラヒ適宜ニ方法ヲ取捨ス可シ
 又生徒ノ知ラサル文字ヲ多ク用ヰテ生徒ヲ苦ムル時ハ却テ作文
 科ノ旨意ヲ妨グルノ恐レアレバ斯ル場合ニハ其ノ中ノ或字句ハ
 假名ニテ綴ラシムベシ

第二例 (書物ヲ借ル文)

此ノ級ニ於テハ簡易ナル日用文ヲ作ラシム可キヲ以テ手紙ノ首
 尾ニ用ユル語ヲ教ヘザル可ラスト雖先通常用ユル所ノ二三ノ語
 ナ授ケ漸次時ニ臨ミテ一二ツ、適當ナル類語ヲ授クルヲ宜シト
 ス若シ然ラズシテ一時ニ數多ノ類語ヲ授クル時ハ其ノ熟語ヲ適

當ノ場合ニ使用スルコト能ハズシテ却テ記憶ヲ煩亂シ遺忘スル
 等ノ恐レアリ

教師板上ニ題ヲ掲ゲ之ヲ讀ミ得ル者ハ舉手セヨ△舉手ス○指ス△起
 ナテ讀ム○何ト云フツケナリヤ△舉手ス○指ス△本ヲ借リニヤル手
 紙○其レニテ善シト思フ者舉手セヨ△舉手○然リ而ノ汝等人ヨリ本
 ナ借ラン時ハ何ト云フヤ△舉手ス○指ス△本ヲ貸シテ下サイ○其レ
 ニテ用足ルヤ△舉手ス○指ス△何ノ本カ本ノ名ヲ云ハチバナラヌ○
 然リ他ニ言フ事ナキヤ△舉手ス○指ス△何日マデト云フベシ衆決○
 喜色ヲ呈シテ其ノ心付ヲ賞シ他ニナキヤ△舉手ス○指ス△アイテ井
 ルナラ貸シ下サイト云フ可シ○何故ナリヤ△若シ用ヒテ居ルヲ貸シ
 テ下サイト云ハハ失敬ナリ衆決
 ○以上ヲ續ケテ話シ得ル者ハ舉手セヨ△舉手ス○指ス△小學讀本(小

限^本御^ア不用^キナ^ア明日^ママ^デ御^シ貸^シナ^スツテ下^{サイ}○ヌケタル處ハナ
 キヤ△舉手ス○指ス△御大切ノ小學讀本ト云フベシ衆決○他ニ云フ
 べき事ナキヤ何ノ卷カチ云フ可シ○然リ何ノ卷ナリトモ隨意ニ作ル
 べシ又明日マデニ限ラス二三日借ルト云フモ四日ホド借ルト云フモ
 諸子ノ隨意ナリ○更ニ完全ニ話シ能フ者アリヤ△舉手○指ス△完全
 話ス

○話ニスル時ハ以上ニテ宜シケレドモ手紙ニ書ク時ハ其ノ初メニ手
 紙ナ上ゲマスト云フコトヲ書クベキナリ諸子今其ノ手紙ナ上ゲマス
 トハ何ト書クベキヤヲ知レリヤ△舉手ス○指ス△以手紙申上候○板
 上ニ書シ一生徒ニ讀マシム○手紙ノ終リニ書ク語ヲ知ルモノアリヤ
 △舉手○指ス△以上知ラサレ○以上トハ何ト云フ事ナリヤ△舉手ス
 ルモノナシ○手紙ノ終リニ書ク語ニシテ始メヨリ書キタル事ヲ申上

ゲマスト云フ事ナリ

○是レヨリ知ラサル文字ヲ問フ可シ△舉手ス○指ス△アイテサルト
 ハ何ト書クベキヤ○之ヲ知ル者ナキヤ△舉手ス○指ス△不用ナラバ
 ト云フベシ衆決○他ニ知ラサルコトナキヤ△舉手ス○指ス△貸シテ
 下サイト云フ事ハ何ト云フ可キヤ○知レル者アリヤ△舉手ス○指ス
 △御貸シ下サレ度ト書ク可シ衆決○知ラサル文字ハナキヤ△舉手ス
 ○指ス△貸ト云フ字ハ如何○貸ト板上ヘ示ス△舉手ス○指ス△大切
 トハ如何○知ル者舉手スベシ△舉手ス○指ス△出デ、板上ヘ大切ト
 書ス衆決△舉手ス○指ス△拜借トハ如何○書キ得ル者アリヤ△舉手
 ス○指ス△出デ、板上ヘ拜借ト書ス衆決○質問盡キタリト思フ時石
 盤ヲ出シテ綴ラシメテ帳簿ニ記サシメ時間ノ終リニ教師ニ差出ス

練習法

作文教案卷之三

練習法トハ生徒ノ作りシ文ヲ其ノ儘教師之ヲ板上ニ掲ケ衆生徒ヲシテ之ヲ批評添削セシムルモノニテ其ノ要點概テ左ノ如シ

- (一) 誤字
- (二) 假名遣ヒ(テニナハ)
- (三) 無用ノ字句
- (四) 不足ノ字句
- (五) 誤用ノ字句
- (六) 錯雜

例書物を借る文

一寸巾上ハ大切之小學讀本御不用スハ間
 恐入ハ得共二三日貸シ被下セ礼度ハ以
 上

教師右ノ文ヲ掲ケ○讀ミ得ル者ハ舉手セヨ△舉手○指ス△起テ讀ム
 ○誤字アラハ正スベシ△舉手○指ス△大切ノ功ノ字ハ誤レリ○來ツ
 テ板上ヘ書スベシ△出テ板上ヘ切ト書ス衆決○教師功ヲ切ニ改ム他

ニ改ムル事ナキヤ△舉手ス○指ス△御大切トス可シ衆決○何故ナリヤ
 △舉手○指ス△他人ノモノ故丁寧ニ言フナリ可教○右ノ如ク改ム△舉
 手○指ス△御不用ニ候ハトス可シ衆決○御不用ニ候間ノ意味ハ如何
 △舉手ス○指ス△御用ヒナサライカラト云フ意味ナリ衆決○御不
 用ニ候ハレノ意味如何△舉手ス○指ス△オツカヒナサライナラパ
 ト云フ意味衆決○生徒ノ言ノ如ク正ス△舉手○指ス△何ノ卷カ知レ
 ス○然ラハ若シ三ノ卷トセバ何處ヘ三ノ卷ト書ク可キヤ△小學讀本
 三ノ卷トスヘシ衆決△舉手ス○指ス△御貸シノ御ノ字削ル可シ○何
 故ナリヤ△自分ノ借ル事ナレハナリ○諸子如何思フヤ△舉手○指ス
 △先キノ者ヨリ貸シテ貰フ事故御ノ字有ルヲ可トス衆決○他ニ正ス
 處ナキヤ△舉手ス○指ス△恐入ハ得共ハハヘ共ニスベシ衆決○以上
 正シタル文ヲ讀ミ得ル者△舉手ス○指ス△讀ム○之ヲ講シ得ル者△

擧手ス○指ス△講ス

馬

馬ハ能ク車ヲ輓キ荷物ヲ負ヒ人ヲ乗セ又田畠ヲ耕ス

ニツカフ

牛

牛ハ力强クシテ能ク車ヲ輓キ又田畠ヲ耕スニ用井肉

ト乳トハ甚タ養ヒトナル

網

網糸ヲアミテツクリ魚ヲ捕フルニ用ユルモノト鳥

ヲ捕フルニ用ユルモノトアリ

酸漿

酸漿ハ其實圓クシテ熟スル時ハ赤色トナル女兒ノ弄

ヲモノナリ

富士山

富士山ハ日本第一ノ高山ニシテ駿河甲斐ニ跨リ直立
一千四百十七丈アリ

燕

燕ハ大サ雀ノ如ク尾長クシテ羽ハ黒シ此ノ鳥ハ夏ノ
初メニ來リ秋ニ至リテ去ル

筆

筆ハ獸毛ニテ穂ヲ作り之ニ竹篠又ハ木ノ軸ヲハメテ
作り文字ヲ書キ繪ヲ寫ス具ナリ

松

松ハ其ノ葉針ノ如クニシテ常ニ青シ人之ヲ庭ニ植
材木ハ多ク建築ニ用ユ

蝙蝠

蝙蝠ハ鼠ニ似テ皮膜ノツバサアリ晝ハカクレタ方ヨリ出デ、トビマハル

燭臺

燭臺ハ木又ハシンチウ等ニテ作り蠟燭ヲ立ツル臺ナ

柿

柿ハ其ノ實八月頃ヨリ熟シ甘キモノハ生ニテ食ヒ

グキモノハ樽柿或ハユロ柿トナス

猿

猿ハ人ニ似タル獸ニシテ之ヲ馴ラストキハ種々ノ藝

ヲナス

櫛

櫛ハ木、鼈甲、象牙等ニテ作り髮ヲ梳ルニ用井或ハ婦人

ノカザリトス

兔

兎ハ山野ニ棲ム獸ニシテ大サ猫ノ如ク耳甚ダ長ク性
馴レ易シ

靴

靴ハ革ニテ製スルモノニシテ短靴ハ常ニ用井長靴ハ
雨雪等ノ時ニ用ユ

狐

狐ハ性狡猾ナル獸ニシテ人家ニ近キ山林ニ穴居シ其
ノ形犬ニ似テ尾大ナリ

柳

柳ハ多ク水邊ニ生ズシダレ柳ハ枝絲ノ如クニシテ甚
ダナガメヨキモノナリ

雁

雁ハ水邊ニ棲ム鳥ニシテアヒルニ似タリ秋ノ初メニ
來リ春ニ至レバ去ル

墨

墨ハ油煙ヲカタメテ製スルモノニテ大和ノ奈良ニ産

スルモノ最モ名高シ

蓮

蓮ハ泥中ニ生シ其ノ花ハ美麗ニシテ實ハハナノ窠ノ如ク根ハ食物トス

羊

羊ハオトナシキ獸ニシテ毛ハ軟ナルヲ以テ筆ヲ造リ毛布ヲ織ル等其ノ用ヒロシ

障子

障子ハ木ニテ骨ヲ作り之ニ紙ヲハリ或ハガラスヲハメ敷居ニ建ツルモノナリ

螢

螢ハ夏ノ初水邊ニ生ズル小蟲ニシテ夜中光ヲ發スルヲ以テ美麗ナリ

火鉢

火鉢ハ金屬陶器或ハ木ニテ造リ火ヲイル、ニ用ユル道具ナリ

栗

栗ハ山林ニ生ジ其ノ實ハ煮テ食シ又乾栗トス材木ハ器具或ハ建築ニ用ユ

龜

龜ハ水陸兩棲ニシテカタキ甲ヲ被リ頭尾四肢皆甲ノ内ニテゾミ入ルヲ自由ナリ

硯

硯ハ石ニテ造リ墨ヲ磨ルニ用ユル器ニシテ深キ處ヲ

海ト云ヒ淺キ處ヲ岡ト云フ

蜜柑

蜜柑ハ其ノ實十月頃熟シ味甘クシテ酸味アリ紀伊ヨリ出ルモノ最モ名高シ

蚊

蚊ハ夏生ズル小サキ翅蟲ニシテ口ニ刺ヲ有シ人ヤ獸ノ血ヲ吸フ

時計

時計ハ時ヲ計ル具ニシテ大ナルモノハ懸時計置時計
ニシテ小ナルモノハ懷中時計ナリ

楓

楓ハ其ノ葉恰モ人ノ掌ヲ開キタル如ク秋ニ至レバ霜
ノタメニ紅色ニ變ジ甚美麗ナルモノナリ

鮭

鮭ハ海ニ棲ム魚ナレモ卵ヲ産スル時ハ河ニ入り來ル
其ノ肉ハヒロク食料ニ供ス

箒

箒ハシユロノ毛モロコシ又ハ竹ノ枝ヲ以テ作り掃除
スルニ用ユルモノナリ

木炭

木炭ハ生木ヲ燒キタルモノニシテ石竈燒ハ堅クシテ
土竈燒ハ燃エヤスシ

蟹

蟹ハ甲殼類ニシテ海河ニ産シ脚四對ハサミ一對ヲ有

ス

枇杷

枇杷ハ冬白色ノ小花ヲ開キ實ハ六月頃ニ至テ熟スル
時ハ黄色トナリ味甘シ

枕

枕ハ寢ヌルトキ用ユル具ニシテ箱枕ク、リ枕空氣枕
等アリ

蛇

蛇ハ水中及山野ニ棲ミ冬ハ土中ニカクル其ノ大ナル
モノハ往々人ヲ害ス

蠟燭

蠟燭ハ糸又ハ紙ヲ以テ心トシ周圍ヲ蠟ニテ製シタル
モノニテ燈火ニ用ユ

搽

搽ハ灌木ニシテ夏ノ初メヨリ其ノ新芽ヲツミテ茶ヲ
製シ飲料トナス

象

象ハ性柔順ニシテ最モ大ナル獸ナリ鼻ハ能ク手ノ用
ヲナシ其ノ牙ハ種々ノ細工ニ用ユ

笛

笛ハ竹ニ七ツ或ハ六ツノアヲチアケタルモノニシテ
音樂ニ用ユルモノナリ

蕃椒

蕃椒ハ實細小ニシテ秋ニ至リ熟ス其味甚カラケレド

モ食物トス

蝦

蝦ハ甲殻類ニシテ河海湖沼等ニ生シ八脚ニシテ二本
ノ長キ髯アリ其肉美味ナリ

鍋

鍋ハ多クハ鐵銅等ニテ造リ食物ヲ煮ル具ナリ又土ヲ
燒キテ造リタルヲ土鍋ト云フ

山吹

山吹ハ其ノ花黄色ニシテ美麗ナルヲ以テ之ヲ庭園ニ

植ユ然レトモ實ナムスバズ

雉子

雉子ハ山野ニ棲ム鳥ニシテ鶏ニ似テ尾長ク其ノ雄ハ

羽毛美ナリ肉ハ味ヨシ

庖丁

庖丁ハ鐵ニテ作り菜刀、デバ、サシミ、庖丁等ノ別アリテ

皆料理ニ用ユル具ナリ

筍

筍ハ竹ノ根ヨリ生シテ未ダ枝葉ヲ生セザルモノニシ

テ食料ニ供ス

鱈

鱈ハ海中ニ産スル魚ニシテ食料ニ供スルノミナラス

レボリテ油ヲ製シ其ノカスハ肥料トス

提燈

提燈ハ竹ノ輪ヲ絲ニテ綴リ紙ヲ貼リタルモノニテ夜

中燈火ヲ點スルモノナリ

櫻

櫻ハ我邦第一ノ美花ニシテ大和ノ芳野山最モ名高シ
其ノ材ハ種々ノ器具ヲ作ル

鸚鵡

鸚鵡ハ性甚馴レ易ク其ノ嘴屈曲シテ鉤ノ如シ此ノ鳥
ハ能ク人語ヲマテス

鉛筆

鉛筆ハ石墨ヲ細キ木ニ嵌メタルモノニテ文字又ハ圖
畫ヲ寫スニ用ユ

杉

杉ハ其ノ葉常ニ青ク材ハ家屋箱等ヲ作ルニ用井其ノ
他功用甚ダ廣シ

章魚

章魚ハ海中ニ産シ骨ナク八脚アリテ脚ニイボアリ吸
ツク力強クシテ手ノ用ヲナス

楊枝

楊枝ハ楊ニテ作ル又刷齒子ハ竹象牙等ニ獸毛ヲ植エ
テ作ル皆口中ヲ清クスルニ用ユ

芭蕉

芭蕉ハ其ノ葉大ニシテ長ク稀ニ黃色ノ花ヲ開ク而シ
テ冬ニ至レバ枯ル

鳶

鳶ハ肉食類ノ鳥ニシテ諸國ノ森林等ニ巢クヒ殊ニ市

街ニ多ク好ンテ腐敗セル魚肉等ヲ食ス

茶壺

茶壺ハ茶ヲ入ル、器ニシテ陶器、木、金屬、或ハ厚紙等ニ
テ作り其ノ形種々アリ

鮎

鮎ハ清キ川ニ産シ川魚中最モ佳味ナルモノナリ又腸
ハ鹽ツケトシテ食ス

傘

傘ハ竹ニテ骨及柄ヲ作り之ニ紙ヲ張り油ヲ塗りタル
モノニテ雨ヲ防クニ用ユ

百合

百合ハ花美麗ナリ其ノ食スベキ部分ハ根ニアラズシ
テ葉ノ變形セシモノナリ

蜂

蜂ハ腰ノトコロ細ク臀ニ刺アリテ人ヲサス蜜蜂ハ蜜
ヲカモス故ニ大ニ人ニ益アリ

太鼓

太鼓ハ木ニテ胴ヲ作り之ニ革ヲ張りタルモノニテ大
小種々アリ皆音樂ニ用ユルモノナリ

梅

梅ハ春ノ初他ノ花ニ先チテ美シキ花ヲ開キ其ノ實ハ
味甚酸シ鹽ニ漬ケテ梅干トナス

熊

熊ハ深山ニ棲ム強キ獸ニシテ其キモハ藥ニ用ヒ皮ハ

ヨキ坐褥トナル

篩

篩ハ木ノワクニ最薄キ布ヲ張り或ハハリ金竹藤蔓等
ヲ編ミテ作り物ヲ篩フ具ナリ

眼鏡

眼鏡ハ水晶又ハガラスニテ作り無色ノモノト有色ノ
モノアリ多クハ金屬ニテフナテ作ル

黄金

黄金ハ最貴キ金屬ニシテ其ノ質軟ナル故ニ銅ヲマゼ
テ貨幣其ノ他上等ノ飾具ヲ造ル

鼯鼠

鼯鼠ハ人家ニ棲ミ脚短ク毛褐色ナリ夜ハ出テ、食ヲ
索メ又鼠鷄等ヲ捕ヒテ其ノ血ヲ吸フ

珊瑚

珊瑚ハ種々ノヨキ飾具ヲ作ルニ用ユルモノニテ紅白
ノ二種アリ皆海中ニ産スル珊瑚蟲ノ巢ナリ

桐

桐ハ其ノ材ノ質粗ニシテ輕ク能ク濕氣ヲ防グヲ以テ
簞笥其他ノ種々ノ箱ヲ作ルニ宜シ

大根

大根ハ蔬菜ノ類ニシテ煮テ食シ又塩ニ漬ケ或ハキリ

ポシトス

三府

東京西京大坂ヲ三府ト云フ其ノ中東京ハ日本第一ノ

都府ナリ

土藏

土藏ハ物ヲ納ル、家ニシテ壁厚キ故ニ火事ノ心配ナ

教場

教場ハ生徒ノ稽古スル場ナレバ此處ニアル間ハ慎テ
勉強スベキナリ

新聞紙

作文教案卷之三

新聞紙ハ世間ノ新シキ出来事ヲ記載シタルモノナリ

本箱

本箱ハ本ヲ入ル、箱ニシテ一本立ノモノト二本立ノ

モノトアリ

天長節

天長節トハ今上天皇ノ降誕マシマシタ日ナルヲ以テ
之レヲ祝フ

日本

日本ハ東洋ノ文明國ニシテ四大島ト多クノ小島ヨリ
成ル

狼

狼ハ犬ニ似タル猛獸ニシテ口大キク前足高シ

秀吉

秀吉ハ賤シキ身分ヨリ起リ最モ貴キ官ニ登リシ人ナ
リ

兵士

兵士ハ國ノ衛リナレバ人々喜ビテ兵隊ニ出ツベキナ

紙鳶

紙鳶ハ絲ヲツケ風ニヨリテ空中ニ揚ゲルモノナリ

鶴

鶴ハ大ナル白キ鳥ニシテ數種アリ其ノ頸脛及ヒ嘴ハ
甚長シ

牡丹

牡丹ハ大ナル花開キ紅キト白キトアリテ美麗ナリ

神武天皇

神武天皇ハ初代ノ天子ニシテ御即位ヨリ今ニ二千五
百五十二年ナリ

日用書類

書物を借る文

一寸申上候陳老小學讀本卷の三御
不用より度候ハ、甚恐入ル共二
三日所貸し被下度候以上

返事

所承紙拜見所申越之小學讀本只今

不用し付ゆるく御覽成さるべく
以上

花見よ人を誘ふ文

拜啓承れに某處之櫻花昨令満開の
由し付明日同遊如何し候哉伺上
小不一

返事

明日某處之櫻見物し就に態く誘
出被下有亦たく存し就而是是非御
撰致し度願上候以上

花を贈る文

庭前の梅花漸く咲始し間紅白とり
生也數枝蓋上候不具

返事

度代金八兩水八りの上可差上候拜
具

透事

昨日御依頼之何本此者よ為持上候
代金八二十錢下候間御承知被下度
候不備

夜學會を催す文

拜啓陳者明晚より極定不了夜學會
相催下候間御意不申候、御出被
下度候不

透事

明晚より極定不了夜學會御催し之
函私儀も至極同意不付何事入會致
し度願上候願首

一、菓子、肉類を贈る文

或人より此等之肉澤山贈身此中
少進止候勿不、

菓子

只余料結構なる牛肉澤山御惠贈被
下難有存候此品處末相水ら御禮
在、

此菓子之居見物、

某度今度之狂言、

ハ明日所同伴如何、

菓子

某度之進居見物、
存候明日午後一時頃、
系上可致、

馳走しなかりし禮文
昨夜ハ泉堂様ニ御馳走止願り奉謝
候此品車少を遣上仕非間所風味被
下度候願首

返事
昨夜者何之風情ハ無之失敬のみ仕
小處却て侍禮不願り恐入小不備

醫師よ診察を乞ふ文

老母儀しやくの氣味よて難澁致し
居候間何卒至急御来診被下度願上
小再拜

欠席届を頼む文

生儀本日不得已要事有之欠席致し
小間別紙届書御差出し被下度願上

候願首

返

御依頼の欠席届書儘不御預り申候

出候之上此度御届申上へく小草と

不具

農具借用之文

拙宅昨日より稲刈相始め小處鎌を

破損致小欠席候間二挺は七拜

借致此度候願首

返

御申越の鎌索不用の物有之候と付

御使の者不為持上候間緩く序用ひ

可致成候不具

手傳を頼む文

来り何日ハ幕布よる繁忙の處家内
無人ニ付御手傳願度御都合伺上候
再拜

返事

御申越の通り是非共御手傳致し度
候へ共父儀留守中ニ付来り蒸候間
あしおらざ御承知被下度候不具

休日を知まらる文

明日より来り何日まゝ冬期休業ニ
相成小亦所欠席中故御承知なご事
と存し一寸所知らせ申上候也

返事

来り何日迄冬季休業の由所知らせ
被下難有奉謝候休暇中ハ折々御

入来被下度候存一
 未紙を頼む文書
 謹啓承礼 貴兄近日何君方へ所出
 の由就而々甚恐入
 届被下度候来具
 轉宅先日何所何番地へ引移り
 此宅先日何所何番地へ引移り

御閑隙の節は御進歩
 下度候勿々不一

貴宅此度某處へ御引移被成候由其
 内休暇を待ち御尋可申候不宣
 昨夜の雨よ何橋の邊へ定めて釣

魚ノ宜カラスト存候間御同伴致シ
度一寸相伺候也

返事

御手紙拜見奉本日ハ休日ノ間小
生も望み居候折故早速御伴可仕候
不備

注文物を催促する文

先日御禮申候洋服何日ノ入用ニ
付於れ迄ノおなと御仕立所送り
被下度候也

返事

豫メ御注文の洋服延引致し恐入ル
明日ハ必ず仕立上テ御届可申候拜
答

在宅を乞ふ文

私儀少く御相談申度事有之明後日
午後三時頃御尋可申候間御在宅被
下度候不一

送下事

貴書披見仕候明後日係出の趣承知
仕候他出の要事も無之よ付必ず御

待可申候也

茶の相場を伺ひ合は文

拜啓陳ハ所地製茶之相場只今ハ如
何なる景況より裁承り度候願首

返事

當地製茶之相場上等之物ハ宜敷候
ハ其下等品ハ少く下落の模様より御

座候不具

雨具を返す天

昨日ハ傘弄下下駄拜借致し難有存
候使を以て御返却申候間御受取被
下度候不一

返事

傘弄下下駄儘小受取申候就てハ御

預り申置候駒下駄御使小持九世上
候以上

道具を直し小遣申文

此懷中時計成へく至急御直し被下
度右目限及代金相伺置度候草と以
上

返事

御遣しの懐中時計來る何日迄ふ必
手形直し可申候代金ハ六十錢ハ御
度候草々頼首

桑の買入を頼む文

拙宅當座ハ桑葉不足ふと困り小間
御地方ハ賣物有之候ハと序世話被
下度願上候拜具

返事

當地ハ桑ハ桑の賣物五駄斗り有
之候間相場場の儀ハ御光來の上御掛
合可被成候拜答

新茶を贈る文

自園の新茶ハ鹿末數斤進呈致し小
間御風味被下度候也

返事

御製造之新茶御贈り被下難有存候
早速拜味仕候處實ふ無類の銘茶と
存候草を拜敬

大試験日を報知する文

未何日より大試験施行候旨申渡され
れ以間一寸御報申上候草を

返事

何日より大試験之由懇々御知らせ
被下千万奉謝候敬具

學課の不審教授を乞ふ文

報儀久敷欠滞致し諸學科不審之箇
所多く有之候就而ハ休日毎ふ少々
宛質問致し度御都合伺上候也

返事

御遊と此の儀俱し勉強可致し間何
時なり共御乗車被下度候拜答

類み置し事候間合是文

先日御頼申置候事先方へ所咄被下
候哉委細御伺ひ申度候不宣

返事

御依頼之件何君へ所話申し處迄目
所定へ案りし由より付在御承知相成
度候也

梅雨中友を招く文

此頃中心打續し雨天より淋しく暮
居候間明日拙宅にて學友相會し歌
留多遊む致是へくは間御閑ふは

と申出被下度候以上

返事

明日ハ鬱散のため申宅より歌留多遊の申儀有之由生々至極同意より付是非共糸上可仕候拜答

留守中采り一人遣来文

昨日ハ懇々申出被下り處不在ならず

昨日ハ掛らず残念より何れ近日御伺可申候也

舟遊を催来文

本日夕刻より學友數名と舟遊致さへく相談仕候貴兄も申同意よりハ六時頃迄も申出被下度候以上

返事

舟遊の序催し至極面白き事と存候
就而ハ五時米頃より糸上可仕候草
と不一

猶児を貰ひ不遣は文

承れば貴宅よりハ猶児相産れハ由
一足頂戴致し度候へ共如何ハハ哉
伺上候願首

返事

猶児三足相産れハ間壹足可差上候
尤も尚十日程相過ぎ特糸可致候也

仕立物を注文は文

此給寸方書の通り何日頃迄ハ序仕
立被下度候代金の儀ハ此者ハ序申
遣され度候也

返事

御禮文の給何日迄も此度相仕立可
申代金乃儀ハ十五錢も此度候間御
承知下され度候敬答

忘れ物を届くも文

昨夜御忘れ被成候為り巻此者も為
持上りも付御受取被下度も拜具

返事

昨夜ハ桑堂種々失敬奉謝も其節遺
失致上り為り巻懇々此届被下恐縮
之至も此餘ハ拜眉も此も再拜

約束を断る文

明日某處へ此同行可致御約束致し
置候へ共今朝より少く病氣も付来

り兼小間ありからず思召被下度候
不備

送事

某處へ所同行致さるべく所約束之處
御病氣の由喚ぶ所困りの事と存候
何れ後日御同伴可仕尚又御養生專
要し存候也

移轉祝し人を招く文

新宅落成候間明日引移候就るハ右
祝之驗迄本粗酒進じ申度候間午後
一時より御光来之程奉待候拜具

返事

明日御新宅へ御移轉の由目出度奉
賀候此花瓶壹個御祝之驗迄し不取

如何不以此哉同上候也

入學を實せり文

御舍弟昨日所入學相成小由奉賀候
此小學續本御祝之驗送不進呈仕候
以上

返事

愚弟入學候處懇に所祝被下減不難

有存小先ハ右御禮来セ勿

賸を贈り文

明後日熱海温泉へ所出立之由此品
乍些少賸の驗送不進呈仕候也

返事

只今ハ賸戴之難有存小何礼歸宅之
上御禮可申上小再拜

書物の價は問ふ文

御新版之何書ハ實價并ハ郵税何程
ハハ裁御通知被下度候也

返事

何書ハ實價金五十錢郵税五錢ハ
度ハ問何率ハ注文被下度候也

買置ハ物ハ取ハ遣是文

先刻購求致ハ置ハ物品此者ハ所渡
ハ被下度ハ以上

返事

先程の物品御使之者ハ慥ハ所渡
申ハ問御致メ所渡取被下度ハ也

歸省ハ告ハ文

兼何日ハり冬季休業ハ相成ハ問何

日下ハ歸郷仕小先ハ一寸御通知迄
勿々

目利ハ頼む丈

此茶器古く拙宅亦有之小ハ共如何
なる陶器小座小哉御鑑定被下度小

返事

御秘藏之茶器私小も鑑定致し難く

小ハ共上等の丈那焼と存候不具

初鯉ハ贈る丈

拜啓出入の魚屋より初鯉持来致し

小間亦少々為持上小也

返事

只今ハ珍しくも初鯉御贈り被下奉
謝小此品亦粗末御禮の驗迄小差上

英學入門之周旋状乞文

小生儀来月より英學修業致し度小
就而ハ何先生へ以紹介願上小再拜

送事

仰越され小儀紹介致し小處早速承
接相成小間御出之上御入門可被成

小也

及第狀父母小報来る文

一書呈上仕小先日之大武驗小至及
第致し何幸級小相成小間此既御安
心被下度小以上

楓見物小誘ふ文

瀧の川の楓最早好時節小相成小由

就而以明後日御同行如何不候哉一寸相伺候

返事

瀧乃川ハ紅葉之勝地之由承居候ハ其未だ見物不致候間是非御供致し度候也

病氣見舞比文

貴兄ハ二三日前より御病氣之由目下御様子如何ハ不裁伺候也

返事

少々病氣之處懇々御見舞被下難有存ハ殆全快ハ間御安心被下度ハ拜具

歸宅を告る文

小生事道中無恙昨夜歸宅致し小先
八右一寸御報知まじ草々

返事

道中事故障なく昨夜御歸宅之由目
出度存小何礼拜顔萬々御伺可申小
以上

貸家取問合せり文

此度御返所へ轉居致度候間相當之
貸家有之候ハ、御世話被下度候不
備

返事

差當り相當此貸家之無之候へ共有
之次第御周旋可致候也

佛事小人取招く文

謹啓来何日七父七回忌の佛事相營
み候間御出被下度候以上

留守中人が招く文

兩親不在ふと淋しく存候御用も有
之れハご御入来下され度待上候

返事

御留守中喚御心淋しき事と存候令

日ハ幸ひ休日故後刻糸上可致候也

全 明治廿五年十月十日印刷
年十月十日出版

版權所有

版權登錄

著 作 者

發 行 者

印 刷 者

印 刷 所

發 賣 所

全

定價金拾八錢

加藤 元右衛門

琦玉縣北足立郡中丸村八十一番地

長 島 恭三

東京日本橋區大傳馬目廿二番地

江 川 次之進

東京日本橋區長谷川町廿一

江 川 行書印刷部

東京日本橋區新葎町六番地

長 島 文昌堂

全大傳馬町二丁目廿二番地

長 島 爲一郎

琦玉縣北足立郡鴻巣町百十四番地

各 府 縣 下 書 肆

長島書店出版書目

國文語學院長 林鑾臣先生講述

每月一回發行

新式 附錄 文則 批難

(密書入) 第十五號發兌
 一冊郵稅共 十二錢
 六冊郵稅共 六十七錢
 十二冊全 一圓廿四錢

○新式 日本文典一編 (自一號至五號) 合本 賣價金五十五錢 郵稅金八錢

○全二編 (自六號至十號) 賣價金五十五錢 郵稅金八錢

○全下編 (自十一號至十五號) 賣價金五十五錢 郵稅金八錢

本誌は語法文則を一讀理想的に會得せしめたる空前絶後の良書ある既に人知れる所なり諸新聞諸雜誌の評語一二を摘録せんに早稻田文學一學理を明辨するに秩序の井然たる又詞辭の解釋一々俗譯をり加へたる周密にして明晰なり快刀もて瓜を斷つが如し國民新聞一所說詳精解明懇到也世の文法を獨修せんとする者は大なる便益を得べしと評せり實に望外の大喝采を世上に博し發刊以來陸續購讀者の數多きを月に増加せり頃日靜岡縣を始め各地方諸學校より於て國語講習會開き本誌を以て其教科用書に決議成りし趣に付續々注文の來る頻りあり○附錄文則批難には本居宜長翁始め國語學諸大家の謬説を古典に徵照して辨難せり

牧野吉彌先生編

訂正三版

教育科 試驗 答案

紙數三百七十頁

賣價金 四十錢
 郵稅金 四錢

全 先生編

訂正三版

物理科 試驗 答案

紙數二百八十頁

賣價金 三十六錢
 郵稅金 四錢

高等尋常中學校師範學校 特別認可學校其他諸學校 受験用參考書

理化學 試驗 答案

福井光先生編輯 川島樸坪先生刪定

全二冊

賣價 二十六錢
 郵稅 四錢

賣價 三十一錢
 郵稅 六錢

故員原益軒先生著 川島樸坪先生刪定

○**家道訓** 全二冊

郵賣價 二十三錢五厘

西野古海先生編

○**國民修身鑑** 全一冊

郵賣價 二十錢

坂東宮二先生編

○**日本修身談** 全一冊

郵賣價 二十七錢

○**國民修身美談** 全一冊

郵賣價 二十七錢

文部省檢定濟中尋常師範學校教科用書

賴山陽先生原選 原田由巳先生訓點

○**訓謝選拾遺** 全三冊

郵賣價 三十四錢

宋黃堅先生原選 日本川島樸坪先生纂評

元林以西先生補

○**纂評古文真寶** 前集二冊 後集二冊 各賣價 三十三錢 各郵稅 六錢

9

7